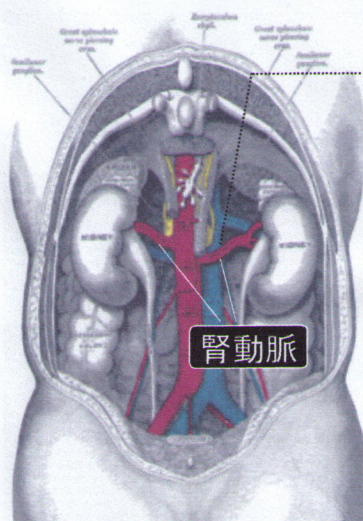


高血圧の原因となる腎動脈狭窄症とは...

腎動脈は、お腹の中を通る腹部大動脈から枝分かれして、左右に一本ずつある腎臓に血液を送っている血管です。腎動脈が狭くなる原因の多くは『動脈硬化症』によるものです。腎動脈が狭くなると、腎臓に行く血流量が減少しますが、その状態を腎臓にある傍糸球体装置というところが全身の低血圧状態と勘違いを起こします。そして、腎臓から血圧を上昇させるホルモン(レニン)が放出します。そのまま放置すると高血圧だけでなく、腎機能を障害して腎不全を引き起こすことがあります。

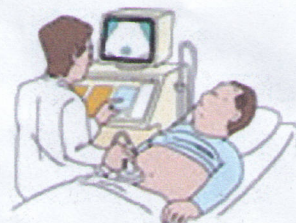
狭窄症が疑われる人

- ①55歳以上で高血圧を発症
- ②安定していた高血圧の悪化
- ③2種類以上の薬を使っても下がらない血圧
- ④原因不明の腎機能障害
- ⑤心臓の冠動脈や足の血管に狭窄がある



大動脈から腎臓につながる血管で動脈硬化が発生した状態。

高血圧が悪化したり、腎臓の機能が低下したりしますが、病態が進まないと、自覚症状が表れません。



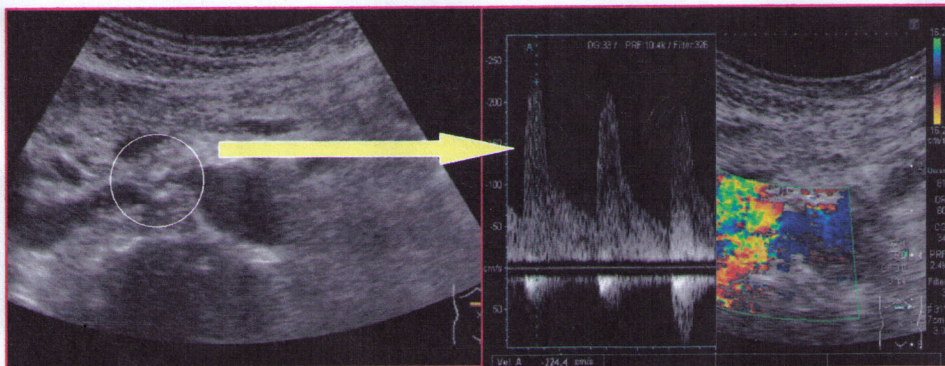
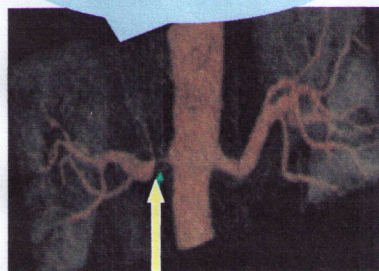
腎動脈超音波検査とは...

<背中側からみた図>

超音波を用いて、腹部大動脈から分岐して腎臓に流れる血管が狭くなっているかどうかを観察します。また、腎動脈の血流の速さを測定することで腎動脈狭窄が診断可能です。超音波検査は造影剤を使用する必要がないため、腎機能が低下してる人にも安全に行える検査です。

【検査時間: 約30分】

CTではこんな感じ...



エコー画像(円で囲った部分が狭くなっています。血管が細くなっているところでは、血流は速くなっています。)

腎動脈狭窄症は早期発見・早期治療が大切です。
疑われる場合は、腎動脈超音波検査を受けてみられることをおすすめします!!